

【新建宮城企画】

石巻市・東松島市・女川町の被災地復興の視察研修

2023年9月16日(土)～9月17日(日)

1.開催主旨：復興のプロセスの検証。地域主体の復興になっているのか。

東日本大震災からあつという間に12年を経過し、被災地復興に関する情報も一段と少なくなってきました。しかし、被災地をめぐる状況は、その後のコロナ禍の傷も加わり、依然として人口減少には歯止めがかかっておらず、被災者・被災地を巡る状況も一段と厳しくなっています。

そして今、「新しい地域づくりのモデル」（東日本大震災復興構想会議提言）として、とりわけ迅速性の追求を旗印に進められてきたハコモノ、インフラ整備中心の復興（「創造的復興」）のあり方と効果が問われ始めています。

特に南海トラフや首都直下型地震が想定される中、これらの大震災の復興への対応を想定した大規模災害復興法制定や事前復興の取組の動きなどから、またこれまで同様のハコモノ、インフラ整備中心の復興になるのではないかとの危機感も広がっています。

特に私達、建築家・技術者が係わってきた復興まちづくり事業（高台移転や区画整理、施設整備等）については、現在「過大な計画だったのではないか」、あるいは「被災地復興の障害になったのではないか」、「被災地や住民意向に即していない」などの指摘も数多くあります。一方、この復興まちづくり事業を所管する国交省や復興庁及び研究機関の事業検証も極めて不十分です。

そこで私達は、防災や復興に直接係る技術者、関係者として改めて、今日の被災地の状況全体を広く把握し、問題点を確認・共有する視察研修を実施することにしました。

視察研修の場所は、宮城県沿岸部の中心エリアである石巻市、東松島市、女川町の津波被災地です。ご承知のように、復興まちづくり事業による豊かな地域景観の消失は言うまでもなく、移転の積重ねがこれまでの都市構造を変えたり、職住分離・高台移転によって、持続不可能と思われる小規模、分散的な住宅地（合わせて高齢化の進行）が数多く見られます。

今回は、このような現状について、それぞれ特徴的な問題・課題を抱えている石巻市や東松島市、女川町の被災地視察を行い、様々な問題を共有したいと考えております。お忙しいとは思いますが、多くの方々のご参加をご期待いたします。



牡鹿半島部高台移転事例



女川原発

2. 話題提供内容：東松島・石巻・牡鹿半島の震災復興について

話題提供者：阿部重憲

2面に続く

3.視察内容：2023年9月16日(土)～9月17日(日)

●集合場所：仙台駅東口一般者駐車場

●集合時刻： 8：50 出発時刻： 9：00 支部会員の車に乗車

①東松島：9月16日 野蒜移転地の新旧。東矢本の復興団地。大曲地区。

- ・移転と元地の活用
- ・震災後のまちづくりにおける石巻との違いは。

②石巻(昼食)：市街地再開発。蛇田などの復興住宅地。広域合併の問題。

- ・住民主体のまちづくりになっているかを検証する。
- ・石巻と周辺自治体の平成大合併の弊害は。

③追分温泉：地元の方からの話題提供。学習会・食事・懇親会。

- ・16：30～17：30 宮城県森林組合連合会会長大内伸之氏から話を聞く。
- ・18：00～懇親会
- ・9月17日(日)9:30 熊谷産業（茅葺き材加工・施工）工場視察。

④牡鹿半島：9月17日 原発内容の検証。海岸部集落の高台移転の問題。

- ・女川町復興整備地区、女川原発PRセンター視察する
- ・前網浜、鮎浦、鮎川(昼食)、月浦を視察。牡鹿半島半周する。

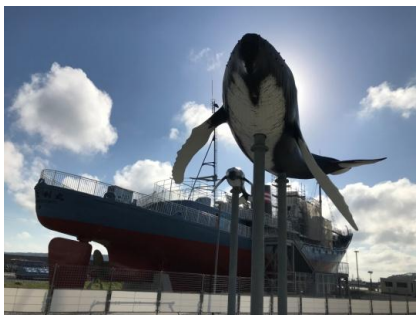
⑤石巻門脇地区：市街地と海岸に近く、戦後暫くして出来た新興住宅地。

- ・震災被災居住不可地を經由し、仙台に戻る。

●仙台解散 18：15頃 仙台駅東口、長町駅

- ・参加費(宿泊・懇親会費+移動費)：支部会員 10,000 円、支部会員外 12,000 円
- ・申込期限：8月31日(木)迄、会費は当日受け取ります。
- ・申込先：新建宮城支部幹事 西條芳郎

984-0828 仙台市若林区一本杉町 24-8-103 一級建築士事務所空間環境研究所
FAX 022-284-4906、 E_mail qzk04157@nifty.com



鯨のまちホエールランド鮎川



支倉常長ローマへの出航の地、月浦